

令和4年度地方創生推進交付金事業評価資料

令和5年6月



令和4年度地方創生推進交付金事業（評価資料）

事業名	四万十川の保全と資源活用による地域活性化プロジェクト
-----	----------------------------

1. 地方創生として目指す将来像

四万十川の中流域に位置している四万十町では、「四万十川」のもつ非常に高い知名度や資源的価値を存分に生かすべく、アユ資源を中心とした資源調査結果に基づき、四万十川の資源の保全及び活用による地域活性化策に取り組んでいる。その中で、激減しているアユ資源の回復とその利活用を含めた地域振興策、住民と川との関わりが希薄になっている現状から川と触れ合う機会の創出、四万十川流域の一次産業と「四万十川」の知名度を活かした外資力強化による経済効果の底上げ、四万十川流域観光の促進による交流促進などに取り組むことで、「四万十川」の重要性や保全の必要性を住民も再認識し、資源回復に必要な流域全体での一体となった取組へと展開していくことを目指すなど、「四万十川」を全面的に打ち出した施策を実施する。

そのための目標数値として、1990年代半ばまでの豊富な水産資源があったころのアユ漁獲量（四万十川全体で600 t超）、高知県の四万十川流域保全振興委員会により定められた目標指標である「川に出かけたことのある人の割合の向上」（平成29年度住民意識調査で「ある」と答えた人の割合47.9%→55%超）、「この地域に住みたいと思う人の割合の向上」（平成29年度住民意識調査 86.8%→90%超）などを目標とし、そのために必要な各種施策について取り組み、四万十川と地元住民の関わりを増加させることで、流域のにぎわいづくりや四万十川を訪れる人の増加へとつなげていく。

2. 地方創生の実現における構造的な課題

【構造的な課題】

当町は四万十川の中流域に位置しており、また町のほぼ真ん中を東西に四万十川が流れている。その位置関係や「最後の清流」としてのイメージにより、町の主要産業である農業や観光に関して四万十川は非常に重要な関わりがあるほか、その好印象と抜群の知名度により、移住相談やふるさと納税者数増加にも大きな影響を与えている。

しかしながら、水産資源として重要なアユ漁獲量が30年前から半数以下に激減し、観光面では地理的条件の不利（高知市内や高知空港からの移動距離の遠さ）や県内の他河川の積極的な観光誘致活動による観光客の分散化などによる集客力の低下、四万十川を活用した学習機会や遊ぶ場面の減少など、また環境面では特に観光シーズンである夏季の河川水の透明度の悪化、農業濁水や河川流出ごみの抑制などの課題が山積している。また、流域の内水面漁協が5団体あり利害関係がそれぞれ異なるなど、関係者や関係機関が多いことから連携した取り組みや合意形成が困難であった。

また、本町には四万十川の恩恵を受けた良質な米をはじめ、ニラやミョウガ、ピーマンなどの施設園芸や、畜産が盛んに行われており、その品質は県内外から高い評価をいただいているものの、その特性を生かした商品開発やインターネットを活用した販売、地産外販への取り組みが弱く課題となっている。一方、観光面においては町内の観光施設の老朽化や利便性の向上に対応するため、計画的な施設の改修を行いながら、町内の飲食、宿泊店との連携による観光客の誘客も図っていく必要がある。このことから、単に各分野の取り組みで終わらせることなく、四万十川の価値を高める取り組みと合わせて、関連団体や観光施設、事業者が連携し、その資源を十分に生かし、地域の雇用や経済の活性化、にぎわいの創出につながる取り組みを行うことが急務となっている。

人口移動（国勢調査ベース）においても、男女ともに、10～14歳から15～19歳になるとき、及び15～19歳から20～24歳になるときに大幅な転出超過となっており、高校や大学への進学に伴う転出の影響が考えられる。一方で、20～24歳から25～29歳になる男性のみ若干の転入超過が見られるが、それ以外は男性・女性ともに40代後半まで転出超過となっている。出生数においてもここ数年間は毎年100人を下回っているため、社会減・自然減に対する施策についても早急な対応が必要であることから、地元高校への進学率向上等による若年層の定着化や町内の若者雇用の産業育成が重要である。

3. KPI（重要業績評価指標）

KPIの内容	単位	当初値	R3	R4	R5	R6	R7
ネット販売利用事業者の販売金額	万円	0	200	1,200	2,700	4,200	5,200
			203	0			
四万十川関連観光客および宿泊者数	人	638,000	641,000	653,000	660,000	667,000	673,000
			537,853	615,376			
アユ漁獲量（上流淡水漁協取り扱い分）	kg	1,300	1,300	1,400	1,600	1,700	1,800
			1,386	1,799			
体験イベント参加者数	人	0	100	150	200	250	300
			72	105			

※下段は実績値

4. 令和4年度の具体的な取組内容及び評価

【1 四万十川の資源を生かす取り組み】

(1) 流域資源の利活用

①四万十産アユ活用事業

【取組内容】	所管課	企画課	
	事業費	8,338,899円	うち国庫補助金 4,169,449円

町内外でアユを食べる店や取組を増やすことで、四万十アユの消費拡大やPRと、釣りイベント等の実施による四万十町のアユ産地としてのイメージ定着を図るため、R3年度の取り組みに引き続き、①アユ販売事業者宣伝用のぼり旗（30枚）・天然鮎お食事MAPの作成（1,000枚）、②鮎小屋開催（3回）、③PRキャンプ動画作成（全3話）、④鮎漁のモニターツアー（JTB高知支店との共催）等を行った。

【成果】

①MAPの減りが早く、シーズン終了時にはほぼ在庫切れの状態となった。多くの方に手に取ってもらえたと思われる。また、MAPを見て来客のあった店舗やアユ塩焼の注文増があった店舗の報告を受けた。
 ②第1弾 7/16（土） 塩焼き 284尾、第2弾 9/23（金・祝） 塩焼 196尾 アユ飯59パック
 第3弾 3/25（土）～26（日）四万十川桜マラソン開催日 塩焼き250尾 アユ飯106パック
 ③四万十ケーブルTV放送、県内6局ケーブルTVにて放送予定、SNS（You Tube、インスタグラム）配信
 ④3/22四万十町・春満喫モニターツアー（日帰り）道の駅とおわ とおわ食堂にてアユ料理3品付オリジナル「春の十和かご膳」を提供 16名参加

【今後の課題及び対策】

MAPでのアユの提供店舗などの情報が少ないため、より多くの情報を提供し消費促進を図る必要がある。また、鮎以外の川の幸の提供店も掲載できるようにする。
 販売イベントでは食数は限定され、また販売当日のみの消費になりがちなため、イベント実施後にも一定量以上の消費が見込まれるような内容として、レシピ公開や定期的な販売などに取り組む必要があると考える。
 これまでの取り組みで蓄積した町内における鮎の情報を一元化したポータルサイト（HP）の作成により、四万十町に訪問する観光客が知りたい情報を発信できるようにする。

②地産地商外商推進事業

	所管課	にぎわい創出課		
【取組内容】	事業費	6,208,474円	うち国庫補助金	3,069,182円

<p>◇四万十町ネット販売推進協議会補助金</p> <p>町内事業者が参加する「四万十町ネット販売推進協議会」が行う、特産品のネット販売や地域の魅力の情報発信に対する支援。令和3年9月に販売休止となったため、販売再開に向け協議会の体制づくりから町内事業者と協議を行った。</p> <p>◇外商力強化支援委託事業</p> <p>町内の中小食品製造事業者を対象に、事業戦略の必要性や、首都圏をはじめとした都市部の市場ニーズに合致した商品づくり、商談会に出展するために必要な基礎知識の習得など、専門家による講義と個別相談の機会を創出。</p> <p>◇外商推進委託料等</p> <p>首都圏のシェフ等を町内へ招聘し、小規模事業者の販路拡大に繋げるため、事業者が商品を直接売込む機会を創出。</p> <p>県外で開催された商談会に四万十町として出展し、事業者が商品を直接売込む機会を創出。</p> <p>黒潮町と2町合同で開催した首都圏の飲食店で両町の特産品を用いたフェアの実施。</p> <p>JAL国内線のファーストクラスやドトールコーヒーの首都圏店舗で、町特産品を使用したフェアへの支援。</p> <p>県外での展示会へ町内事業者が出展する際の展示ブースへの支援。</p> <p>高知市で開催された「ふるさとまつり」では、出店する小間料を負担することで、町内事業者が特産品の販売やPRを行う機会を創出。</p>
--

【成果】

<p>◇四万十町ネット販売推進協議会補助金</p> <p>販売再開に向け町内事業者と協議を行ってきたが、ネット販売推進協議会の新体制の構築が難航し、令和4年度中の販売再開には至らなかった。</p> <p>現在は、町の地場産業振興センター機能を持つ「あぐり窪川」に事務局機能を依頼し、販売再開に向け取組みを進め、令和5年3月15日にネット販売推進協議会の事前説明会を開催して協議会への参加を呼び掛けた。また、5月11日にはネット販売推進協議会総会を開催し、販売再開に向け取り組んでいるところである。</p> <p>◇外商力強化支援委託事業</p> <p>令和4年6月から11月にかけて全体講義や個別相談を実施。</p> <p>全体講義は全4回、延べ参加企業数28社・35名、個別相談は延べ14社。</p> <p>直接的な効果として、事業戦略の必要性や目標達成に向けたプラン作成など自社の現状把握を行い、消費者が求める商品を知ること自社商品の磨き上げの参考に繋がった。また、今後商談会に出展する際のノウハウの習得を行った。</p> <p>発展的な効果として、習得した知識と経験を活かした外商活動により、実践的な取組みに期待ができる。</p> <p>◇外商推進委託料等</p> <p>直接的な効果として、町特産品の売り込みに繋がった。また、食材フェアの実施により、首都圏での四万十町食材の認知度を高めることに繋がった。</p> <p>発展的な効果として、今後の取引継続に期待ができる。また、消費者ニーズを町内事業者が知ることにより、自社商品の磨き上げの参考に繋げる。</p> <p>展示会では、商品案内や試食の提供時の補助、展示ブースへの誘導など、集客を専門的に行うスタッフを配置することで、事業者がパイヤーとの商談に効率的に取り組むことができた。</p> <p>「ふるさとまつり」では、町内事業者8社が出展。県内の消費者に町内特産品の販売を行い、事業者の売上に繋がるとともに、町内特産品のPRにも繋がった。</p>

【今後の課題及び対策】

◇四万十町ネット販売推進協議会補助金

現在は参加事業者と販売再開に向け取り組んでいる所であるが参加していない事業者も居り、今後はまだ参加していない事業者にも引き続き声を掛け続けていく。

◇外商力強化支援委託事業

全体講義や個別相談を受講した参加者からの満足度は高く、他のテーマ（各業界やOEM製造のニーズなど）で今後も開催を希望する声があった。課題としては、参加者は外商を行っている（検討している）事業者であるが、さらに参加者を広げて地産外商推進に繋げていく必要がある。令和5年度は、外商を検討している事業者を対象に、商品のコンセプトづくりや商談会へ出展するための基礎知識を習得するための講座を開催する。

また、展示会では、出展事業者が限定（外商への意欲や人員体制などにより）されており、上記の講習などにより町内事業者の掘り起こしが必要となる。

◇外商推進委託料等

外商力強化支援と同様に、町内事業者の掘り起こしが課題となる。外商の意欲があっても、ニーズに合った商品や供給体制がないと外商に結びつくことが難しいため、多くの事業者が直ちに成果が上がっていくものではなく、今後も事業者への支援を継続し、販路拡大に繋げていく。

(2) 観光資源の活用及び商店街との連携

①四万十川PRツール作成・利用事業

	所管課	企画課		
【取組内容】	事業費	20,012,900円	うち国庫補助金	10,006,450円

・四万十川の観光等の情報を外部へ発信するために、特に映像や動画、アプリなど従来の四万十町で実施していなかった媒体を中心に活用し、戦略的なPR活動を積極的に展開することで観光客や交流人口をさらに増加させるため、2年目は主に制作したアプリゲームの運用開始、機能の追加修正や町内のPR動画の撮影および配信に係る費用として事業を委託した。

・四万十町の情報発信について様々な方法で取り組んだ。LINEでは各課からのお知らせだけでなく、住民に関連がありそうな内容（通行止めなど）を配信した。プレスリリース配信では、四万十町を多くの人に目にしてもらうきっかけをつくるため、四万十町の取り組みや、イベント情報などを配信した。

また、四万十町の地域情報番組を制作した。これは、町外の人に四万十町の魅力を知ってもらうきっかけづくりとしてだけでなく、町民にも改めて四万十町で暮らしていくことの魅力を感じてもらうために制作された。そのほかにも、四万十町情報発信事業として、町内の事業者や個人を対象に「プロから学ぶ写真講座」を開催した。

【成果】

・スマートフォン用アプリを4月10日に公開し、実際に運用する中での機能修正を7回行った。令和4年度ダウンロード数については、1628回であった。

また、令和3年度に引き続きYouTubeチャンネルタイアップ企画及びTwitter・Instagramとして、じゅんいちダビッドソンさんによる四万十川PR動画を2回撮影。SNSで5.8万回以上の再生を記録し、SNSを見て関心を持った、実際に来た、という意見が数多くあった。

・LINEによる情報発信については、定期的な配信を心がけ、登録者数も少しずつ増加している。写真講座では、参加者の多くから「勉強になった」と言っていた。

四万十町の地域情報番組は、放送後YouTubeにアップしたり、ケーブルテレビで放送することによって、多くの視聴があり、今後も増加が見込まれる。

【今後の課題及び対策】

・SNS等を活用した取り組みは他市町村も行っているため効果的な広報をしていくためには、内容の差別化を図り十分な検証が必要である。今後も発信のタイミングや対象者など十分な検討をしたうえで展開していく。

また、再生動画や作成したアプリと連動した町への集客や周遊のための取組を行い、直接的な経済効果が得られるような取組を増やしていく。

・町内全体で魅力発信ができるよう、講座の実施も積極的に行っていく。

②受入態勢整備促進事業

	所管課	にぎわい創出課		
【取組内容】	事業費	23,947,071円	うち国庫補助金	11,973,535円

海洋堂ホビー館四万十は、フィギュアや模型を始めとした、あらゆるホビーをテーマとしたミュージアムとして、これまでの四万十町の自然体験型観光と融合させ、幅広い層の観光客の誘致を図る観光交流拠点である。ホビー館に関する展示物等については、より専門的な知識と取り扱いに関する技術が必要であり、造型師として人材を保有している奇想天外は、管理運営を行ううえで強みを持っている。また、ホビー館の企画展に合わせて周遊企画を展開することで、ホビー館への来場の誘導を図るとともに、関連施設への回遊を促進し、観光による消費を刺激することをねらいとし、海洋堂のフィギュアコンテンツを柱として、町内の観光産業の一体感を育てていきたいという願いも持っている。

また、南国土佐 時代の夜明けものがたりの運航開始にともない、観光列車活用事業として沿線の駅を花で飾ったり、かかしコンテスト等を開催して乗客をおもてなしする事業を委託している。

その他、イベント事業ではコロナ禍で中止していた奥四万十トレイルランニングを再開。地域資源を生かしたスポーツイベント運営を委託している。

【成果】

【海洋堂ホビー館四万十】

- ・入場者 : 営業日数：315日 入場者数：26,540人 入場料：17,094,890円
- ・ジオラマ体験：営業日数：121日 体験参加者：548人 体験料：904,200円
- ・周遊企画(アリスの不思議なまちづくり)
- ・アリスと謎解きの旅 クリア賞品受取数：360人 (四万十町分)
- ・アリスと不思議なカードラリー カード配布数：35,644枚 抽選応募者数：420人 コンブ賞品受取数：86人

【観光列車活用事業】 令和4年度乗客数：約8,900人 窪川駅降車数：約3,800人 窪川駅乗車数：約4,200人

- ・かかしコンテスト 参加かかし数：16体
- ・おもてなし回数 54回

【奥四万十トレイルランニング】

- ・エントリー者数：281人
- 36kmコース 251人 ・親子ペア、キッズコース 30人 合計281人

【今後の課題及び対策】

ホビー館については、一定数町外客の誘致ができていますが、この中でどれだけ町内での消費につながっているかを調査しながら、今後の活用にいかしていきたい。また、周遊企画についても参加者が多く好評であると思われるので、途切れないように新たな企画を立てていきたい。

観光列車については、コロナ禍の終息を受けて県内外の観光客の他、海外からのツアー客など利用者数の増加が見込まれる。かかしコンテストやおもてなし等好評をいただいている活動を継続していきたい。

奥四万十トレイルは、コロナ感染予防対策に十分注意しながら無事に開催することができ、県内外から200人を超えるランナーの参加があった。アンケートでも次大会に参加したいと答えるランナーも多く、町の魅力を伝えられる良い大会なので今後も継続していきたい。

【 2 四万十川流域の豊かな暮らしを育む取組 】

(1) 資源回復のための取組

①水産資源回復事業

	所管課	企画課		
【取組内容】	事業費	15,353,550円	うち国庫補助金	7,676,775円

資源回復のための取組に流域全体で着手するための基礎調査（アユ遡上状況、生息分布、由来判定、降下状況、流域漁協組合員対象のアンケート調査）を実施するとともに、食害の大きいカワウ対策として追払いを実施し、費用対効果の検証等を行った。

【成果】

流域全体での資源調査や組合員へのアンケート実施により、アユ資源についての実態や漁協間での情報共有、今後の方向性の集約等に向けた協議のきっかけづくりとなった。

また、カワウ飛来状況や漁場管理場所等の情報の整理を行うことができた。

【今後の課題及び対策】

得られた情報を基に、四万十川流域全体での資源保護・増加のための取組の協議を継続して行い、漁協間での意思統一を今後図っていく必要がある。

回復した資源の活用方法について具体的な取組と実績を今後増やしていくことで地域への経済的波及効果を図る。
 (①四万十産アユ活用事業とも連携して実施)

(2) 四万十川流域の環境保全

①環境対策事業

	所管課	学校教育課、企画課		
【取組内容】	事業費	3,522,420円	うち国庫補助金	1,761,210円

<学校教育課>

町内小学校の児童を対象にSDG s の理解を深め、より身近に感じることが出来るようにSDG s 日記の活用や講演会を通して、児童及び保護者が自分で出来る事から取り組む意識の醸成を図った。

<企画課>

地域住民の環境への意識を高め、自然との共生を掲げる本町の取組をさらに推進するため、SDGsの普及啓発の活動を実施するとともに、食品ロスの削減によるCO2排出量の削減に寄与するため、連携協定を締結している(株)アッシュのイメージキャラクターである「もぐにい」を活用した出前授業を町内の保育所・小学校にて開催した。また、SDGsの啓発用バッジを町内の間伐材を活用して作成し、保育所や小学校の児童及びSDGsイベント来場者に配布を行った。

【成果】

<学校教育課>

町内小学校（12校中6校）の児童を対象にSDG s 日記を活用することで普段の生活（節水・節電・食べ残し等）からSDG s を意識する児童が増えた。

<企画課>

町内の保育所・小学校での出前授業を通じて、子ども達が社会課題を自分ごとに捉えて行動することの大切さを学ぶことができた。また、国内の食品ロスの現状と問題点を知り、食べ残しを少なくするための工夫や、食品を購入する際に気をつけることなどグループワークを通じて学びを深めることができた。

【今後の課題及び対策】

<学校教育課>

町内全ての小学校でSDG s 日記を活用するとともに、SDG s を意識する児童を増やし、家庭や地域を巻き込んだ取り組みが出来るように支援を行う必要がある。

<企画課>

子ども達の学習を通じて、保護者にも環境に対する意識やSDGsの考え方が浸透してきつつあると考えているが、今後はこのような活動に町民を巻き込むことが重要と考えているため、スーパーや飲食店など協力を得て、食品ロス削減協力店としてポスター等を掲示していただくなど、さらなる意識の啓発に取り組み、町民の環境に対する意識の向上を図っていきたい。

②景観保全事業

	所管課	企画課		
【取組内容】	事業費	6,077,288円	うち国庫補助金	3,038,644円

河川流出ごみ対策の取組として、増水後に河川に残されるビニールごみ等の回収への支援や委託を行った。また、四万十川流域全体での景観保全、四万十川保全の取組を協議する四万十川総合保全機構への負担金を支出した。

【成果】

観光シーズン前や台風等の増水後の景観を損ねているビニールやプラスチックごみなどを撤去することで、四万十川のイメージである清流らしさを保全することが一定できたと思われる。また、農業濁水の防止として止水板配布や啓発を行うことで住民に対して清流を維持するための意識向上を図るとともに、流域全体で川の濁りの現状やその改善についての協議の場を設けることで意見交換等が行えた。

【今後の課題及び対策】

ごみ流出については発生源対策も必要であり、流出しないように住民や観光客に対しての啓発や、流出したものについての早期回収も含めて長期的な取組も必要と考える。

また、単独自治体だけではなく、四万十川流域として全体での啓発や対策を協議することが重要であることから、保全機構の取組及びその支援等についても十分な協議のうえ、具体策を検討することが必要と考える。

(3) ふるさと教育事業

①川ガキ育成事業

所管課	人材育成センター、学校教育課		
【取組内容】	事業費	20,014,884円	うち国庫補助金 5,792,395円

<人材育成推進センター>

町内に2校ある県立高校の存続のために、平成28年度から「四万十町高校応援大作戦」を展開している。これは、魅力ある教育環境の充実のもと、地域に誇りと愛着を持ち主体的に行動できる子どもたちの育成を目指して行っており、特に将来の地域課題を解決するためにも、存続要件が示された町内の高校に特化した人材育成と地方創生を進めている。町内高校の持続可能な魅力づくりは、地域の教育環境の充実や活性化にもつながるとともに、移住・定住を選択していただく上で大きな影響力となる。

<学校教育課>

学校教育課では、ふるさと教育（故郷を愛し、志を持ち、地域に貢献できる人材の育成）を推進するための学習として、町内全ての小学5年生を対象に米奥小学校下の河原で川がき体験事業（川遊び・水中ドローン・生き物探し等）や4校（田野々小・北ノ川小合同と十川小・昭和小合同）を対象に森と水の大切さを学ぶ水ケーション事業（講師 萩原智子・小野なぎさ）を実施した。

【成果】

<人材育成推進センター>

町内高校の存続や魅力化に向けて、町営塾の設置・給食の提供・通学費の支援など様々な事業を行っている。特に両高校のICT教育を進めるために、高知県内の県立高校ではいち早く生徒一人ひとりにタブレット端末の貸与し、授業はもとより、自宅での学習でも活用している。その結果、交付金事業実施前の令和2年度と比較して令和4年度の入学者は倍増、令和5年度入学者も1.5倍程度であり、町内の中学校からの進学率も40%を超えるまでに回復し、高知県教育委員会が提示していた存続要件も達成している。

<学校教育課>

新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響で多く児童が急遽欠席となり参加児童数は34名（対象児童89名）と少なくなった。しかし、午前中だけの活動だったが、児童たちが自ら他校の児童とコミュニケーションを取り、互いに協力しながら活動することが出来た。また、水ケーション事業では四万十町の森や川の豊かさ再認識するとともに両事業において自分たちが住んでいる地域に対する愛着を育むことができた。

【今後の課題及び対策】

<人材育成推進センター>

窪川・四万十両校の存続要件である各20人以上の入学人数は連年達成しているが、さらに少子化が進む状況で町内進学率の向上は元より、町外からの進学者確保にも一定努めていく必要があり、町外進学者の受入態勢の整備なども検討する必要がある。また、本町においてふるさと教育を充実させることにより地域に愛着を持った子供を増やすことで、大学等への進学就職で県外に一度転出した人たちのUターン促進や関係人口の拡大に向けた取組とし、魅力ある環境づくりと地域を支える人材の育成をさらに進める必要がある。

<学校教育課>

今現在、町内の小学校では地域の特色を生かしたふるさと学習を実施しているが、全ての学校が四万十川で活動できる環境にないことから、今後も各関係機関と協力しふるさと学習（川ガキ体験や水ケーション事業）を支援していく必要がある。

②高知大学連携事業

【取組内容】

所管課	企画課
事業費	2,598,612円
うち国庫補助金	1,299,306円

四万十川の利活用推進モデル構築事業として高知大学と連携し、川での遊び方を提案・実践することで四万十川観光における若年層の取り込みを図るとともに、四万十川を題材とした学生活動や授業を通して四万十川との関連を深め、研究素材としての活用を提案した。

【成果】

川での体験活動の一環として、地元で有効活用されていない竹を用いて、竹水鉄砲大会を地域協働学部の学生が企画していたが、コロナの影響により実施ができなかったため、代替イベントを実施し、子供たちの反応や改良点等を検討したうえで次年度開催に向けた取組とした。

9/18（日）第1回 四万十川竹水鉄砲国際大会 コロナ感染拡大防止のため中止

10/15（土）龍馬誕生祭イベント、11/13（日）台地祭り参加

また、そのほかの取組として、大正中津川地区における文化や自然、地域活動などの情報収集地域観光客向けの防災キャンプ等、いくつかの取組がコロナの影響で実施できなかったが、以下の取組については実施した。

2/18（土）、2/19（日）大正中津川写真今昔展（会場：オーテピア）

【今後の課題及び対策】

取組を提案していくとともに、大学生が活動できない場合も含めた連携事業の実施の仕方を検討していくことが必要と考える。また、コロナ対策が緩和されたので、今後は学生が地域の方々との交流を積極的に行い、これまでの成果を地域住民とともに情報共有を行っていく必要がある。

総事業費	106,074,098円
うち国庫補助金	48,786,947円

デジタル田園都市国家構想交付金(地方創生推進タイプ)実施主体別事業経費内訳報告書

事業名	交付決定額 (円) A	実績額 (円) B	実績報告の内訳										過不足額 (円) A-B							
			事業主体 名称	経費の内容	ハード 事業	実績額(円)			事業開始年月日			事業完了年月日			証明 資料No					
						総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	年	月	日	年		月		日				
四万十川の 保全と 地域活性 化プロ ジェクト	64,034,000	48,786,947	四万十町	1 四万十川の資源を生かす取り組み		58,507,344	58,437,234	29,218,617												
				(1)流域資源の利活用		14,547,373	14,477,263	7,238,631												
				四万十産アユPR事業委託料		5,314,100	5,314,100		4	4	1	5	3	31	No.1-1~5					
				イベント用消耗品費		2,126,964	2,126,964		4	4	1	5	3	31	No.2-1~2					
				調査用サンプル購入費		247,835	247,835		4	4	1	5	3	24	No.3-1~3					
				四万十川漁業振興協議会負担金		650,000	650,000		4	4	1	4	10	7	No.4					
				外商力強化支援委託事業		2,434,479	2,434,479		4	6	1	4	11	30	No.5-1~3					
				外商推進委託料等		3,773,995	3,703,885		4	4	1	5	2	28	No.6-1~28					
				(2)観光資源の活用及び商店街との連携		43,959,971	43,959,971	21,979,985												
				四万十川PRツール事業委託料		3,960,000	3,960,000		4	4	1	5	3	24	No.7-1~5					
				四万十川PRアドバイザー等謝金		4,895,800	4,895,800		4	4	1	5	3	31	No.8-1~3					
				情報配信サービス使用料		660,000	660,000		4	4	1	5	3	31	No.9-1~2					
				情報発信ツール使用料		924,000	924,000		4	4	1	5	3	31	No.10-1~2					
				地域情報番組制作委託料		9,130,000	9,130,000		4	7	22	5	3	24	No.11-1~3					
				地域資源映像サイト保守委託料		243,100	243,100		4	4	1	5	3	31	No.12-1~3					
				クリエイター謝金		200,000	200,000		4	4	26	4	6	8	No.13					
				イベント開催経費、広告宣伝費		8,300,000	8,300,000		4	4	1	5	3	31	No.14-1~3					
				交通整理委託料		759,000	759,000		4	4	1	4	8	15	No.15-1~5					
				周遊促進イベント委託料		4,474,198	4,474,198		4	6	29	5	3	23	No.16-1~5					
				観光列車活用事業委託料		3,432,000	3,432,000		4	4	1	5	3	31	No.17-1~4					
				奥四万十トレイル運営委託料		2,847,573	2,847,573		4	4	1	4	9	30	No.18-1~6					
				二次交通促進事業委託料		750,000	750,000		4	8	1	5	3	31	No.19-1~3					
				シェアバイクリース料		2,658,700	2,658,700		4	5	27	5	3	31	No.20-1~3					
				高知県観光コンベンション協会負担金		430,000	430,000		4	8	18	4	9	8	No.21					
				四万十川流域市町村観光振興連絡会負担金		295,600	295,600		4	6	1	4	6	17	No.22					
				2 四万十川流域の豊かな暮らしを育む取組		47,566,754	39,136,660	19,568,330												
				(1)資源回復のための取組		15,353,550	15,353,550	7,676,775												
				水産資源調査委託料		7,667,000	7,667,000		4	4	6	5	3	31	No.23-1~3					
				漁場管理等委託料		1,922,539	1,922,539		4	4	1	5	3	17	No.24-1~7					
				カワウ対策委託料		982,000	982,000		4	4	1	4	6	6	No.25-1~5					
				一般事務補助職員報酬		782,011	782,011		4	4	1	5	3	31	No.26-1~2					
				水産業振興事業補助金		4,000,000	4,000,000		4	4	1	5	2	16	No.27-1~11					
				(2)四万十川流域の環境保全		9,599,708	9,599,708	4,799,854												
				食品ロス啓発事業謝金		693,000	693,000		4	10	17	4	11	28	No.28					
				食品ロス啓発用消耗品		1,303,280	1,303,280		4	5	19	5	3	31	No.29-1~2					
				食品ロス調査委託料		812,240	812,240		4	4	11	5	1	6	No.30-1~3					
				SDGs推進事業委託料		713,900	713,900		4	4	1	4	12	9	No.31-1~4					
				水質検査委託料		1,445,400	1,445,400		4	6	8	5	3	17	No.32-1~5					
				河川景観整備委託料		1,195,640	1,195,640		4	4	1	5	3	31	No.33-1~14					
				四万十川総合保全機構負担金		3,436,248	3,436,248		4	4	1	4	8	8	No.34					
				(3)ふるさと教育事業		22,613,496	14,183,402	7,091,701												
				バス運転手報酬(旅費含む)		30,309	30,309		4	8	4	4	8	4	No.35-1~2					
				体験委託料(水ケーション)		1,058,040	1,058,040		4	6	13	4	6	16	No.36-1~3					
				消耗品等		29,028	29,028		4	8	4	4	8	4	No.37-1~3					
				ふるさと学習講師謝金		16,000	16,000		4	12	3	4	12	3	No.38					
				プログラミング教育指導者報酬		799,953	799,953		4	11	2	5	2	21	No.39					
				窪川高校教育振興会補助金		9,058,907	7,058,012		4	4	7	5	3	31	No.40-1~4					
四万十高校教育振興会補助金		9,022,647	2,593,448		4	4	27	5	3	31	No.41-1~4									
高知大学連携事業委託料		2,598,612	2,598,612		4	4	11	5	3	31	No.42-1~8									
計			106,074,098	97,573,894	48,786,947															
合計			106,074,098	97,573,894	48,786,947											15,247,053				

山・川・海 自然が 人が元気で 四万十町

令和4年度地方創生推進交付金評価資料

令和5年6月作成

四万十町企画課

〒786-8501 高知県高岡郡四万十町琴平町16-17

TEL：0880-22-3124 FAX：0880-22-3123

E-mail：103080@town.shimanto.lg.jp

